



■コラム＜グローバル・アイ①＞

『米・キューバ、歴史的和解の瞬間が…チェをめぐるぼくの初夢』

北岡和義（日本大学国際関係学部特任教授）

21世紀に入って3つの文明史的な大事件が起こりました。イスラム原理主義者による911同時多発テロ。昨年11月米国大統領選、黒人のバラク・オバマ圧勝。そしてサブプライム問題。世界同時不況のツナミは優良成長企業・トヨタも飲み込みました。派遣切り、人員整理で新春早々、慌てふためいています。

「景気はいつ回復するのか」と不安げな表情でニュースを見ている人には気の毒ですが、もう、以前のような世界には戻らないと思います。文明は新しいステージに上がった。この困難な時代を生き抜く決意と勇気こそ大切なのです。

ゲバラの生涯を描いた映画、二部作がリリースされました。ベニチオ・デル・トロ主演、製作、S・ソダーバーグ監督の「チェ・ゲバラ」（第1部「チェ・28歳の革命」・第2部「チェ・39歳・別れの手紙」）です。

あの、カリブの奇跡と言われたキューバ革命から50年経ちました。元旦に日本を発って元旦にLAに着いた頃は年越し風邪でゴホゴホやりながら「ああ、50年前の1月8日、カストロは奪った戦車に乗り、狂喜する群衆の歓呼に迎えられてハバナ入りしたんだ」…と。

エルネスト・チェ・ゲバラはアルゼンチン生まれの医師です。チェはフィデル・カストロという大柄なキューバ人弁護士とメキシコで運命的に出会い革命を成功に導きました。日本を訪れヒロシマの原爆慰霊碑に花を捧げます。工業大臣に指名されましたが、ある夜、密かにキューバを去り、再び革命の戦場へ戻りました。チェはラテンで最も貧しい国、ボリビアの政府

軍に虐殺されました。勇気と愛とロマンの革命家でした。

作家・村上龍はメール・マガジン「JMM」でゲバラの言葉を紹介しています。

「もし我々が空想主義だと言われるならば、救いがたい理想主義者だと言われるならば、できもしないことを考えていると言われるならば、何千回でも答えよう。その通りだと」

この言葉、文脈、どこかで聴いたような気がしませんか。そう、昨年11月4日深夜、シカゴのグラント・パークで、当選が決まったオバマの熱い勝利演説とそっくりです。

オバマは言いました。

「もし、アメリカはあらゆることが可能な場であるということに疑う人がいるなら、建国者の夢がわれわれの時代に生きていることに首かしげ、民主主義のパワーに疑問を投げかける人がいるなら、今夜が皆さんの回答です」

そのカストロが昨年、引退しました。オバマの登場で、アメリカとキューバが歴史的和解をする瞬間が近づいているような気がしています。アメリカとキューバが仲良くなる。ぼくの初夢です。

“Think Global, Act Local” ぼくの好きな言葉、21世紀を生き抜く知恵です。その目線“グローバル・アイ”と名づけました。「アイ」は「愛」でもあります。



■Work Place-Optimization ～働く環境・場所の最適化～

企業では、良いモノを作って売る「もの作り社会」から、素晴らしいコトを提案する「提案ごと社会」へと変化しています。利益の源泉は設備や材料ではなくナレッジへと変化、人材ではなく人財へと変化、業務は指揮・命令からではなく、自律性・独自性・多様性から発生、組織は階層型・縦割りから、横断型・ネットワーク組織へと変化していきます。

その変化した社会に対応した働き方を、三技協では【あるべきワークスタイル】と呼んでいます。2008年6月から7月にかけて各部門の代表によるワークショップが行われ、三技協が向うべきワークスタイルについて様々な議論が交わされました。そこで打ち出されたストーリーを全社員が認識し、コンセンサスを得ることが、あるべ

きワークスタイル実現のための次のステップであると考えます。

三技協としての【あるべきワークスタイル】を実現させる要因のひとつに、ハードウェアの整備を挙げており、現在は[Work Style]と[Work Place]両方のプロジェクトを平行させて進めております。

お客様企業に常駐している社員も少なくない環境下において、時間や場所に依存しない働き方や、社員コミュニケーションのあり方、その中での本社の位置づけや機能など、ワークプレイスの変化によって大きく変えていくべき考え方について整理し、全社員の共通認識に繋げていきます。



■ SoMeT08国際学会 副社長招待講演と技術開発室チームの検証発表

10月15日～17日にソフトウェア技術に関する国際学会【SoMeT08】がUAEのドバイにて開催されました。三技協からは副社長の丸田が招待講演者として“Developing a unique collaborative system- ‘Optimization-Ware’ using a novel massive data retrieval/management approach”の発表を行いました。

三技協で既に実践し、お客様へのご提案も行っているPBT手法とサイバーマニュアルを組み合わせた“Optimization-Ware”についての解説は、これまでの学会でも殆ど類を見ない手法とあって、会場からは高い関心が寄せられ、多くの質問で盛り上がりしました。

続いて、論文の発表内容のうちデータベースの高速化の裏付けとなるデモンストレーションが、技術開発室メンバーによって行われました。大容量データから所望のデータを高速に抽出する技術“ISSEI”の優位性を、一般的なデータベース管理手法である“MS SQL server”と比較して

副社長 丸田による講演の様子。多くの質問にもひとつひとつ丁寧且つ的確な回答を行いました。



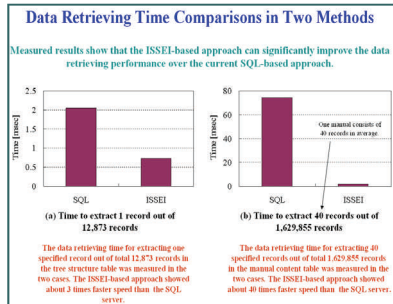
実証しました。

さらに、2008年4月に技術提携を結んだ株式会社HOWSの庄司社長と三技協技術開発室メンバーによるチュートリアルセッションがありました。

庄司社長が言われている根源的な思想である

『再発見』の重要性について、技術開発室メンバーが『エンジニアが見落としがちな「コロンブスの卵」の発想を自ら引き出す』という“豊かな発想の重要性”というコンセプトに展開して引き継ぎました。

今後技術開発室では、“ISSEI”の高速データ抽出を活かした関連検索機能を着手するとともに、“ISSEI”の実用化における同時アクセス時のコリジョン問題などの検証を進め、サイバーマニュアルへの実装を目指します。



発表資料より抜粋

SoMeTとは？

International Conference on Software Methodologies, Tools and Techniquesの略。ソフトウェアの設計手法や、設計ツール、ソフトウェア技術全般の研究発表を行う国際学会。

■ 人財育成 ～人を育てる企業とは～

【コラム ～人を育てる～】

海上自衛隊の士官経験を持つコンサルタントから伺った士官候補生訓練のお話を紹介します。ハイライトは富士の裾野の行軍です。

“行軍中は水筒の水を飲むな、休憩時間は座って休むな！”と教官が告げました。終って、教官は待ちかまえていたように“水は飲まなかったな！”、“ハイ！”と誰かが答えました。

水筒を揺さぶりながら“ところで、貴様らはどうして水を飲まなかったのか”、一瞬の沈黙があって“教官がそうおっしゃったからです”

“お前ら何も考えていないのか！！、俺が死ぬと言ったら死ぬのか”

“どうしようもないやつらだ、解散！”と言ってさっさと立ち去ろうとします。

訓練生はあっけにとられますが、一人が“なんとか説明をお願いします”

“なにも考えないで行動するやつはすぐ死ぬ、水筒の水はお前らの水ではない部下に飲ませる水だ、小休止の時は部下の怪我の様子を見るのがお前らの仕事だ、解散！”残された訓練生達はそれぞれに、“うんうん”うなずきながら兵舎に戻って行きました。

巧みな話者の語り口もあり、妙に納得したのを思い出します。(竹森)



【オプティマイザー育成の取り組み】

弊社の全マネジメントを交いして行われるブレインストーミング2008が昨年7月に開催されました。

TOPマネジメントを含めた議論にて“オプティマイザーの育成”を全社上げて取り組むことがコミットされました。続く8月には経営会議にてオプティマイザー育成プロジェクトが承認され9月からスタートしました。プロジェクトの第一フェーズはワークショップ主体に現状の課題抽出と育成カリキュラム作成を実施しました。2月からは本格的なプログラム開発が始まります。

それに先立ち、昨年暮れには、社長、仙石と社員の直接対話による“企業理念研修”が開催され、年明け早々、プレゼンテーション研修が社長を講師に開催されました。弊社はお客様のサービスを最適化するスキルを磨き人材育成につとめております。

編集後記

社会全体に向けての企業メッセージを発信することをコンセプトに掲げ、次号より【SGC Report】をリニューアルいたします。今号は、新しい紙面のスタイルを少し取り入れて【コラム】の掲載を試みました。進化し続ける三技協の新たな【SGC Report】もどうぞご期待ください。 A

【構創塾 企業理念研修】

2008年度の始まりに三技協グループの『企業理念』『経営者の信条と経営方針』が新しく制定されました。新たな企業理念がグループ全社員に浸透する事を目的とした『構創塾』(企業理念研修)を11月より開催しております。『構創塾』では社長が塾長となり、各職場にて企業理念を軸とした三技協の進む方向性について、意識の共有を行っています。

【諏訪道場】

当社ではお客様の問題を一緒に探し解決に導く「課題探索型」ビジネスサービスを展開しております。そのためには自らの問題を発見し解決する能力の育成が必要不可欠です。三技協では「諏訪道場」を立ち上げ、諏訪良武先生によるCPS問題解決手法のスキル習得を目指しています。

※CPS：茅づる式に問題を明らかにし、全体を把握した上で解決案を実行に移す問題解決手法。

発行者 株式会社 三技協
発行責任者 丸田力男
住所：横浜市都筑区池辺町4509
TEL: 045-931-1111 FAX: 045-931-0001
E-mail: info@sangikyo.co.jp
URL: www.sangikyo.co.jp